

卒業文集最後の二行

筆者のT子さんへのいじめとその気持ちの変化について考え、より良い生活について考えよう
筆者がT子さんを「きたねえからもつと離れる」とはやし立てた時どんなことを考えていたのだろうか

きたないから 嫌がらせ
近づいてほしくない 楽しい

面白半分
仲間につられて



漢字小テストでカンニングして満点を取ったのにT子さんに「おめでとう」と心から言われた時筆者はどんな気持ちだろうか

自分がカンニング
最高点はT子さん
後悔している

恥ずかしい 本気でほめられた

T子さんにカンニングの疑いをかけて騒ぎ立てているのを聞いて筆者も「ずるい」と責めたことによりT子さんが泣いて叫んで逃げ出した時の筆者はどんなことを考えていたのだろうか

腹立たしい 自分よりT子さんが上
許せない 小テストで負け

憎らしい カンニングをしたのは自分
面白半分 周りと騒ぐ

格好をつけている 悪いのはわかっている
卒業文集の最後の二行に書かれた「私が一番欲しいのは母でもなく本当のお友達です。そしてきれいな洋服です。」を読んで筆者はどんなことを考えただろうか

後悔
いじめ
ひどい
謝りたい
つらい
悲しい
申し訳ない
残酷
差別
偏見



T子さんは悪くない
いじめのような差別や偏見
のない社会を作るために
あなたはどうしようと考えましたか

他の人の立場になって

平等

公平・公正

差別をしない